

# 土木情報利用技術論文集

## - 査読基準 -

土木学会情報利用技術委員会  
論文編集部会

### 1. 査読の目的

建設分野を対象とした「情報利用技術」に関わる研究・開発の内容を，多くの会員に紹介することを目的として投稿原稿に対する査読を実施する．

なお，掲載される論文の内容に関わる責任は著者にあり，研究内容に対する評価は，読者に委ねられることを付記する．

### 2. 研究の対象

当委員会で扱う研究・開発は，その名称（情報利用技術委員会）のとおり，幅広いものとなっている．研究の範囲を限定して定義することは困難であるが，建設分野における「情報利用技術」に関わる研究・開発を対象として，新規性，独創性に富み，今後の土木工学の発展に寄与する内容として認められるものを積極的に採用する方針をとっている．

主な研究対象は，建設分野を対象として，以下のとおりである．

- ・ 各種分析理論や評価モデルをベースとした情報処理・解析システム等の設計・開発
- ・ 情報の「収集・蓄積，管理・共有，発信・提供」支援を目的としたシステム等の設計・開発
- ・ 教育支援を目的とした情報提供・管理システム等の設計・開発
- ・ 情報の活用支援を目的としたビジネスモデル
- ・ システム設計論，システム開発の方法等に関する研究 他

### 3. 査読基準

#### 3.1 評価

投稿論文がその分野においていかなる位置付けにあるか，新しい観点から述べられた内容を含んでいるか

<p><b>有用性</b></p>	<p><b>工学上,工業上,その他の実用上で何らかの意味で価値がある.</b></p> <p>a) 主題,内容が時宜を得て有用である</p> <p>b) 研究,技術の成果は応用性,有用性,発展性が大きい</p> <p>c) 研究,技術の成果は有用な情報を与えている</p> <p>d) 当該分野での研究,技術や情報のすぐれた体系化をはかり,将来の展望を与えている</p> <p>e) 研究,技術の成果は実際の情報システムに適用しうる価値がある</p> <p>f) 今後の情報システムの調査,計画,設計,構築,活用に適用しうる価値がある</p> <p>g) 問題の提起,試論またはそれに対する意見として有用である</p>	<p><b>有用性がある</b></p> <p>システムがすでに実務に活用されていて効果があがっている</p> <p>他の企業,組織の類似の業務にも適用しうる幅広い応用性を備えている</p> <p>話題の技術が実際に使用した経験に基づいて評価されている</p> <p>同等かそれ以上の機能,性能があるシステムが経済的に実現されている</p> <p><b>有用性がない</b></p> <p>実際のシステムに適用するためには明らかに機能や性能が不足している</p> <p>制約や条件が多すぎて適用できる範囲がかなり限定されてしまう</p> <p>技術的な裏付けがなかったり,実現の見通しが立っていない構想である</p> <p>経済的なツールを用いたが価格に見合っただけの性能しか得られていないシステムである</p>
<p><b>完成度</b></p>	<p><b>読者に理解できるように簡潔,明瞭かつ平易に記述されている.</b>(文章の表現に格調の高さ等は必要としない.)</p> <p>a) 全体の構成が適切である</p> <p>b) 目的と結果または情報システムの評価が明確である</p> <p>c) 既往の研究,技術あるいは情報システムとの関連が明確である</p> <p>d) 文章表現は適切である</p> <p>e) 図・表はわかりやすく作られている</p> <p>f) 記述や図表が冗長になっていない</p>	<p><b>完成度が低い</b></p> <p>連載形式の構成であり,独立した論文,報告とは認められない</p> <p>結論や評価を下せる段階までには進展していない</p> <p>所定の枚数以内に収まっていない</p> <p>(図・表のレイアウトの不備については本原稿の提出時には仕上がってくるのが予想されるので,減点の対象としない)</p>

### 3.2 判定

3.1での各項の評価をもとに、以下の点に留意し掲載の可否を判定するが、「可」、「否」にかかわらず、判定の理由を具体的に記載する。

- ・ 3.1の各項の評価のうち1つでも問題があると評価されても「否」とするものではなく、多少の欠点があっても、学術や技術の発展に何らかの意味で、良い効果を及ぼす内容があるものには掲載されるよう配慮する。
- ・ 以下の場合には掲載不可とする。
  - 1) 投稿論文が、本委員会で扱う研究範囲から大きく逸脱している場合
  - 2) 所定の形式を無視しているなど重大な問題がある場合
  - 3) 既発表あるいは他学協会誌等へ二重に投稿されていると判定される場合  
なお、既に発表した内容を含む論文でも、
    - ・ 新たな知見が加味され再構成された論文
    - ・ 限られた読者にしか配布されない刊行物、資料に発表された内容をもとに、再構成された論文である場合には、既発表ではないと判定する。またこの場合は、該当する論文名、著者、掲載誌などを通知する。

以上